松徳新聞

2026年 1月号

発行所：松徳新聞編集室　〒580-0032 松原市天美東7丁目13-26

HEAD LINE

P.2 新年のご挨拶
P.4 ICLSプロバイダーコース開催のご報告と今後の展望
P.5 診療科特集／保険証からマイナンバーへの移行について
P.6 初期研修医の紹介／依頼講演募集中
P.7 これなう!／各部署の紹介／今月のレシピ
P.8 公開医療講座&オンライン医療講座

謹賀新年

旧年中は大変お世話になりました
本年もよろしくお願い申し上げます

令和８年１月

新年のご挨拶

地域とともに、健康と暮らしを守る病院であるために

院長
吉田　毅

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、患者様、地域の住民の皆様、多くの施設の皆様、そして地域の医療機関の先生方より、当院の日々の医療活動に対し温かいご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

病院は、病気やけがを治す場所であると同時に、人々の生活や日常を守る場所。体の不調だけでなく、不安や迷いを抱えたときに、「まず相談してみよう」と思っていただける、そのような〝頼れる場所〟であり続けることが、地域医療をになう私たちの使命だと考えています。先日、患者さんが外来診察を終え、帰られるときに「ここにきて話をすると安心する、元気になる」と笑顔で声をかけてくださいました。医療は治療技術、知識は当然のことながら、安心や希望を届ける営みでもあることを、改めて教えられました。

医師、医療従事者の不足、物価高騰など医療を取り巻く環境は決して楽ではありません。しかし、地域の診療所、クリニック、病院の先生方との連携、患者様やご家族のご理解、そして職員一人ひとりの誠実な取り組みがあってこそ、地域医療は成り立っています。「一人で行くのは早いが、皆で行けば遠くまで行ける」という言葉の通り、連携こそが地域医療をまもる力であると実感しております。

本年も当院は、地域の医療機関、福祉施設、関連機関と手を携えながら、健康と暮らしの両面から地域を支える病院として歩み続けてまいります。どうぞお気軽にご相談ください。

新しい年が、皆様にとって安心と笑顔に満ちた一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

副院長
外科部長
森田 剛史

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い申し上げます。

今年は2026年、21世紀も四半世紀過ぎ、日本初の女性総理も誕生し、大きな時代の流れを感じます。流行語大賞になった『働いて働いて働いて働いて働いてまいります』に私の世代は共感し、懐かしさもあります。『働き方改革』や『ライフワークバランス』は大切でも、経済なき道徳は戯れ言でありましょう。

21世紀の現在、20世紀に比べて世界を巡る情報量は5000倍にもなっているそうです。2メガバイトのフロッピーディスクで、パソコンのデータをやりとりしていた学生時代を思い出しますが、今は1か月にスマホで10ギガバイト以上使用することも普通にあるようですね。まさに5000倍です。

医療界も人間の眼や思考では到達できない画像波形診断技術、人間の手指感覚を超えたカテーテル操作やロボット支援技術も一部導入されつつあります。

道徳ある経済発展や技術革新を期待したいものです。

皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

副院長
循環器内科部長
川尻 健司

新年あけましておめでとうございます。

2026年は、日本が誇る医学者・野口英世の生誕150周年を迎えます。細菌学の発展に尽くし、世界を舞台に感染症と闘い続けたその姿勢は、現代を生きる医療者にとっても大きな指針であり、患者さまの健康を守るために不断の努力を続ける大切さを改めて思い起こさせてくれます。野口英世が生涯をかけて追い求めた「人々を病から救いたい」という志は、今もなお私たち医療従事者に受け継がれています。

医療は日々進歩し、治療方法やケアの考え方も変化を続けていますが、その根底には「患者さまに寄り添う心」が何より重要です。当院では、皆さま一人ひとりの生活背景や思いを尊重し、安心して相談できる医療を提供することを大切にしております。体調の小さな変化や不安がございましたら、どうぞ遠慮なくお声がけください。早期の発見と適切な対応が、未来の健康を守る大きな力となります。

野口英世が歩んだ道に思いを馳せながら、私たちもまた、地域の皆さまの健康を支える存在であり続けられるよう、研鑽と誠意をもって診療に努めてまいります。

本年が皆さまにとって心身ともに健やかな一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。どうぞ本年もよろしくお願い申し上げます。

副院長
木野 博文

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたりご挨拶申し上げます。

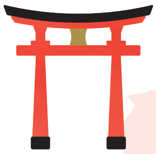
昨年は、4月に大阪・関西万博が開幕し連日報道され大盛況のうちに閉会しました。公式キャラクターの「ミャクミャク」も大人気で、私自身も赤と青からなる物を見るとミャクミャクと勘違いするほどでした。

一方、昨年は医療業界にとっては厳しい一年となりました。全国的に医療機関の経営赤字が報道され人材不足も深刻さを増し、地域医療を支えていた病院の縮小や閉院の報道も目にしました。

半世紀前に、この松原で誕生した医療法人徳洲会は「生命だけは平等だ」という理念の下、全国の地域医療に貢献してまいりました。

新しくグループに入った松原市の阪南中央病院や平野区の正和病院と連携して、24時間・365日患者様を受け入れられるよう診療してまいります。

本年も、地域の皆様に信頼される病院であり続けるために職員一同、努力を重ねていきますのでよろしくお願い申し上げます。



副院長
脳神経外科部長
大山 憲治

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

2025年問題が終わり、国は、2040年にむけた新たな地域医療構想に本腰を入れて取り組んでいます。日本の人口が毎年約85万人ずつ減り続ける中、最も人口比率の高い団塊の世代が後期高齢者になり、今までの中で最も医療需要がひっ迫する今後15年間がやってきます。医療機関は入院医療だけではなく、外来・在宅医療、介護との連携、が必要になり、病院は2027年度までに、急性期拠点病院（緊急手術対応可能病院）、高齢者救急・地域急性期病院、在宅医療等連携病院、専門等機能病院、4パターンに分類されます。そして、その旗振り役は医療側ではなく行政が中心となり、より狭い範囲で医療介護が完結できる体制が構築されます。

この大きな流れの中、幸い、松原徳洲会病院は、病院新設移転の話も具体化してきており、同じグループで複数の連携病院もあり、国策と一致した地域完結型の医療体制を組むことができます。徳洲会本部は、つぎつぎと全国で連携病院を増やしており、医療の効率化にも積極的に取り組んでいます。

徳洲会グループは、日本一の医療法人であり潰れることはありません。職員の皆さんは、日本全国どこにいっても同じ価値観を持つ職員が暖かく迎えてくれるはずです。仕事はどこよりも忙しいかもしれませんが、勤務時間は、働いて働いて働いて働いて、そして時間外労働はせず、地域に感謝される病院に今まで以上になれるよう、皆で頑張りましょう。

外科顧問
古河 洋

2026年あけましておめでとうございます。

昨年夏は毎日猛暑で、果たして冬が来るものかと心配しました。戦争がまだとまりません。戦争でない解決法はないものでしょうか。

松原徳洲会病院は増床のあともかわらず患者様を受け入れています。新しく始まった呼吸器外科外来は院内で落ち着いて肺癌の診療を開始しました。また、腫瘍内科は抗がん薬治療の発展をけん引しています。抗がん薬による新たな治療法が次々と開発されており、腫瘍内科医の存在が欠かせません。がんの遺伝子検査も可能です。

救急を多く看る当院での問題は、救急搬送された患者さんが実はがんであるケースが多いことです。このようなケースでは、「進行がん」が原因で腹膜炎をおこしたり大出血したりします。「救命」に加えて「がんの治療」が必要です。「救命しても進行がんの治療ができないこともしばしばです。どうしたらよいのか…。普段のがん検診が必要です。がんになっても治療をしてさらに健康な生活を送っていただきたい。

松原徳洲会病院は「大阪府がん診療連携拠点病院」になって3年経ちます。大阪府の統計によれば、松原市のがん患者さんの60％が大阪市内で治療を受け、松原市では25％しか受けていないことが示されています。がん患者さんは高齢化しています。治療は近くの確かな病院で、そして丁寧なフォローアップが必要です。そのために患者さんに寄り添う「緩和ケアチーム」「相談支援チーム」がいつもサポートしています。

「がん治療は松原で」を実践するために大学（大阪公立大学、近畿大学、大阪大学、大阪医科薬科大学、関西医科大学）とも連携を続けてまいります。

今年もより地域に密着した充実した医療を提供してまいります。

参与
浦山 聡

新年明けましておめでとうございます。

令和8年が始まりましたが病院経営を取り巻く環境は漆黒の闇です。元来が許認可事業で、行政からの補助金等で青色吐息の運営を余儀なくされる業態ではありますが、政府の指針である大幅な病床削減の意向下、保険診療に対する予算の可及的な縮小が病院経営を逼迫させています。

病院は多職種による集約型産業です。長きのデフレ環境に慣れた体制をあざ笑うように突如出現したインフレモンスターは①医療原価、②人件費の二大固定費を増幅させました。この費用を賄うためには令和8年春に実施される診療費改定において昭和のオイルショック時に取られたような二桁超えの＋改定の英断を国が採択し収益が計上できる方向に舵を切る以外に病院壊滅からの救出の道は無いと考えます。

ここ数年来実施されてきた病床削減の改定の基調を逸脱することは国の方針として良しとされないでしょうから政治による玉虫色の改定にならざるを得ないことも明白です。そういった時節の中、当院は皆様方からのご支持により現在も自立が適っております。

今後とも変わらずのご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

本年もお世話になります。

事務長
藤田 元幸

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は皆様のご協力・ご理解・ご支援を賜り、誠にありがとうございました。

地域の皆様のおかげで、新年を無事に迎えることが出来ました。今年度は、増加した病床を含めて、手術や入院治療など多くの方々にご利用いただきました。一方で、急性期医療に対応する役割を担っている施設のため、長期の入院が出来ない状況もあり、ご不便をお掛けすることもございました。現在の医療制度では、病床区分に応じて機能分化が進められております。より一層地域医療機関と連携を密にし、安心して医療が受けられるよう精進して参ります。

松原市内においては、阪南中央病院が同法人に参画されましたので、今まで以上に連携して患者様の受入を、地域としてしっかりと行えるように取り組んでおります。また昨年は、大阪市内南部の正和病院が同法人に参画されましたので、こちらにおいても連携を強化しております。

今後も原点である救急医療を中心に、がん治療など様々な医療を実践し、地域医療への更なる貢献が出来るよう、理念に基づいた活動を進めて参ります。

本年も皆様のご理解・ご支援賜りますよう、宜しく申し上げます。

看護部長
江籠 カエコ

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は看護部の活動に多大なるご支援・ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

馬年の本年は、「駆け抜ける力」や「前進する勢い」を象徴するといわれています。看護部としても、その力にあやかりながら、チーム一丸となって〝うまく（馬年にちなみ）〟課題に取り組み、より良い看護の実現へと歩みを進めたいと考えております。

医療環境が大きく変化する中で、看護に求められる役割はますます広がっています。患者さまに寄り添い、その人らしさを尊重する看護を提供するためには、皆さま一人ひとりの力と連携が欠かせません。本年も、看護の質向上、安全対策、働きやすさの向上、教育体制の充実に向けて〝うまく〟連携しながら、力を合わせて取り組んでまいります。

また、職員の皆さまが健康で、安心して、イキイキと働ける環境づくりにも力を注いでまいります。〝うまくいく一年〟となるよう、看護部としてしっかりと支え、共に歩んでまいります。

患者さまの安心と信頼を第一に、そして職員にとって誇れる看護部であり続けられるよう、皆さまとともに前進してまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

松原徳洲苑
施設長
中島 弘

謹んで年頭のご挨拶を申し上げ、皆様の健やかな一年をお祈りいたします。

昨秋の着任以来、松原徳洲会病院や当苑の皆様の温かいご指導により、施設長として順調なスタートができました。厚く御礼申し上げます。

多死高齢化が進む今、当苑が取り組むべきは、「立ち位置の明確化」と「医療・介護の垣根を越えたサービスの質の向上」です。今後も徳洲会病院との有機的な連携を強化し、以下の二点を推進します。

①病棟と在宅を橋渡しする「短期リハビリテーション施設」機能の維持。②短期集中リハビリやショートステイを活用した稼働率向上と「自宅・居所への復帰支援」機能の強化。これらに加えて、人生の最終段階を迎えられる利用者様とそのご家族様には段階的ACP（アドバンス・ケア・プランニング、人生会議）を支援し、「ここに入ってよかった」と感じていただける尊厳ある看取りケアのご提供に努めます。

新建屋というハードに相応しい洗練されたソフトとは、皆様スタッフのことです。松原徳洲苑は多職種相互がリスペクトしあうプロフェッショナルな集団になり、利用者様の尊厳を第一とするケアを実現して参りましょう。

本年もよろしくお願いいたします。

松原徳洲苑
総師長
中田 奈美

新年おめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

今年、2026年度の干支「丙午」は、「丙」と「午」が合わさるのは、60年に一度だけです。日本では古くからの迷信で様々な社会現象を引き起こしましたが、本来の意味は、「陽の気が最も強まり、活気に満ち溢れ、大きく飛躍する年」として捉えていました。迷信とは、裏腹に非常に力強く、良い意味を持つ干支なのです。

昨年を振り返りますと、歴史的な出来事がいくつかありました。スポーツ界では、大谷翔平選手がメジャーリーグでMVP連続4度目の受賞をし世界中を沸かせました。そして政権交代による経済において、新たな局面を迎えた1年となりました。

早いもので、松原徳洲苑が新築移転し2年が過ぎました。地域の皆様には、松原徳洲苑を知って頂ける取り組みとして月に一度、当苑5階ホールにて講演をさせていただいております。テーマは、毎回違いますが、是非お気軽にお立ち寄りください。

これからも、地域の皆様と共に、成長し貢献できる施設となるように職員一同努めて参ります。

皆様にとって平穏で幸多い年となりますように御祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

ICLSプロバイダーコース開催のご報告と今後の展望

12月7日に松原徳洲会病院**ICLS(Immediate Cardiac Life Support)プロバイダーコース**を開催いたしました。

ICLSコースでは、**あらゆる医療者が身につけておくべき「突然の心停止に対する最初の10分間の適切なチーム蘇生」に関する技術**を習得できるようにしています。今回は看護部5名、救急救命士1名の計6名が参加し、1日を通して一次・二次救命処置の座学・実技・筆記試験を行いました。

運営において中心的な役割を担ったのはコースディレクターである垣井文八医師(ICLS公認ディレクター)で、全体の進行管理はもちろん、講義からシミュレーションに至るまで、豊富な経験に基づいた指導でコースの質を大きく高めていただきました。またブース長として現場を支えてくれたのは、出水智也看護師(4南病棟)です。受講生の理解度を丁寧に把握しながら、実技指導とブース運営を円滑に進めていただきました。コースコーディネーターとして、両名の尽力に心より感謝申し上げます。

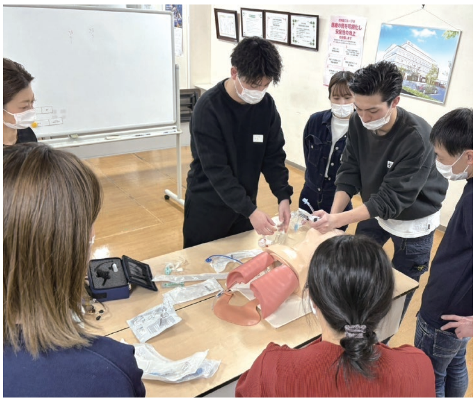
さらに、松原徳洲会病院の看護師インストラクター8名のほか、岸和田徳洲会病院から公認インストラクターの西看護師に応援をいただきました。今回の開催に必要な資機材の調整にも多大な支援をいただき、スムーズな運営が実現できました。ここに厚く御礼申し上げます。

研修開始後間も無く受講生は、胸骨圧迫や気道確保・チームでの連携に不安を抱えている様子が見られました。しかし、繰り返しの実技演習を経て確実にスキルを習得し、最終シミュレーションでは一人ひとりが自信を持って急変対応を行えるまでに成長することができました。受講後の表情には達成感にあふれ、学んだ内容を現場で活かしたいという意欲を強く感じられました。

心停止はどの医療機関のどの部署においても起こりうるもので、いったん発生すれば蘇生を開始するまで少しの猶予もありません。まさに「Immediate(すぐに、間髪をおかない)」な処置が必要となります。**心停止直後の処置には、あらゆる医療者がチームの一員として参加し、蘇生を行うことが求められています。**今後は看護師のみならず、医師やコメディカルへ参加を広げ、**院内全体の急変対応力をさらに強化**していく方針です。

また、将来的には系列病院を含む他院からも受講生を受け入れ、地域医療へ貢献できる教育体制を築いていきたいと考えています。松原徳洲会病院が救急教育の拠点となれるよう、引き続きICLSコースの発展に尽力してまいります。

受講者


気管挿管

胸骨圧迫

実技シミュレーション

最後にみんなで記念撮影

診療科特集（循環器内科）

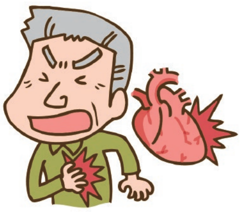
循環器内科 副院長
川尻 健司

当科は心臓の血管が狭くなることで起こる狭心症に対して判別の為の冠動脈ＣＴ検査・心臓血管カテーテル検査や狭心症と判断された際の心臓血管カテーテル治療、脈がゆっくりなる（徐脈性不整脈）ことで、息切れの症状が強くあらわれた際に日常生活に必要な最低限の脈を打つようにしてくれるペースメーカーの埋め込み治療はもちろんのこと、脈が速くなり、どきどきするなどの頻脈性不整脈に対してのアブレーション治療も行っております。

　また上記治療の際の入院や心臓のポンプ機能が低下し、全身に必要な血液を十分に送り出せなくなる心不全に対してなどの入院治療も行っています。

　外来は月・火・金の午前（8時～12時）にて受付を行っております。上記の症状があり、お困りの際は外来までお越しください。

　また、心臓血管病領域の南大阪地域中核病院として24時間体制で急性期医療も行っております。患者様の希望や病変に応じて最適な治療を行うため、総合的評価を行い低侵襲で最先端の治療を提供していけるよう日々努力しております。



【循環器内科 外来予定表】

	月	火	水	木	金	土
午前診察	川 尻	担当医			川 尻	
	岩 倉				担当医	

保険証からマイナンバーへの移行について

◎12/1より健康保険証が廃止になりマイナンバーへ移行になります。

1. 健康保険証の廃止

政府は従来の健康保険証を廃止し、マイナンバーカードと一体化した“マイナ保険証”に移行する方針です。ただし、すぐ全員がマイナ保険証に切り替え必須になるわけではありません。マイナンバーカードを持っていない人向けに「資格確認書」が発行されるなどの経過措置があります。

2. マイナ保険証を使うメリット

- ●医療機関でオンライン資格確認が行われる
- ●薬剤情報・特定健診情報を医師が確認できる（同意が必要）
- ●マイナポータルで医療費が自動記録される
- ●医療費控除の確定申告が簡単になる

などのメリットがあります。

マイナちゃん

3. 切り替えは“必須”ではない

マイナンバーカードがなくても医療機関は受診できます。
マイナ保険証を作らない人は「資格確認書」（従来の保険証に代わる紙での証明）を受け取って利用します。

初期研修医の紹介

どうぞよろしくお願いいたします!

①**氏　名**：横山 正樹（よこやま まさき）
②**出身地**：兵庫県芦屋市
③**趣　味**：自転車·ゴルフ
④**好きな言葉（座右の銘）**：石の上にも三年
⑤**配属部署**：外科·救急科
⑥**職場での抱負**：一生懸命に頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

依頼講演募集中

― 地域・学校・施設へ医療スタッフが伺います ―

【学校向け講演・講習】

松原徳洲会病院では、学校を対象とした医療・健康に関する依頼講演を行っています。児童・生徒や教職員の皆さまを対象に、医師や看護師などの医療スタッフが学校へお伺いし、年齢や学年に応じて分かりやすくお話しします。

主な内容は、

- **エピペン講習**
- **救命講習（心肺蘇生法・AED）**
- **がん教育**
- **喫煙防止講習** など

授業や研修の一環としてご活用いただけます。

災害訓練の様子

【一般・地域向け講演】

地域の団体や各種施設を対象にした講演・講習も幅広く募集しています。自治会や老人会、施設の集まりなど、ご依頼があれば医療スタッフが会場へ伺い、日常生活に役立つ医療知識を分かりやすくお伝えします。

主な内容は、

- **救命講習**
- **高血圧についてのお話**
- **脳疾患の予防や早期発見について** など

参加者や目的に応じて内容の調整も可能です。

救命講習の様子

◎講演内容や日程のご相談・お申し込みは、
※※松原徳洲会病院 地域連携室（渡邉・杉山）※※ までお気軽にお問い合わせください。

これなう！ マイカーなう

6階南病棟 看護師
西村 凱登

6階南病棟看護師西村です。せっかくなので自分の趣味を紹介したいと思います。

趣味といいますか、自分は小学生の頃から車が大好きでいつか大人になったらかっこいい車に乗りたいと思っていました。最近とうとうマイカーを手に入れたのですが、これが凄くかっこよく何度見ても惚れてしまいます。名前はGRスープラと言いますが、BMW伝統の直列6気筒ターボエンジンが良い音するんです。仕事で疲れた時や、悩み事があるときにはこの車でドライブしてストレス解消しています。

燃費も悪くガソリンも高くお金のかかる車ですが、その分仕事を頑張って沢山の思い出を作っていこうと思います。少しでも車に興味のある方がいましたらぜひ語りましょう。

皆様もぜひガソリン車で思い出を。

愛車と走った先に広がる、愛媛の海

各部署の紹介 リハビリテーション科

リハビリテーション科の理学療法士15年目の中谷です。当科についてご紹介させて頂きます。

当科では医師の指示のもと入院患者へのリハビリテーションはもちろん、外来でのリハビリテーションや退院後の患者様に対しての訪問リハビリテーションなど様々な場面での地域密着型のリハビリテーションを行っております。私が入職した当時は理学療法士7名のリハビリスタッフしかいませんでしたが、病床数の拡大に伴いスタッフも増員し、現在は理学療法士23名、作業療法士5名、言語聴覚士6名の総勢34名となり、多くの患者様へリハビリテーションを提供できるようになりました。

当院でのリハビリでは集中治療室などの超急性期での訓練はもちろん、退院後の生活に不安のある患者様への外来・訪問リハビリの実施が特徴的です。また患者に寄りそうリハビリテーションの提供を心がけております。リハビリテーションは基本的に1対1で行います。患者様の中には入院中の楽しみとしてリハビリの時間を待ち遠しく思って下さる方がおられ、訓練後にありがとうと言われた時には我々も嬉しくてたまりませんし、そのことがやりがいでもあります。

話は変わりますが、当科のスタッフにはゲーム好きなスタッフや100km走るスタッフ、ラグビー熱の強いスタッフなどかなり個性豊かなスタッフが多数在籍しておりますので、リハビリテーション室の空気は院内で一番と言っても過言でないほど和気あいあいとしております。（本当ですよ！もしかしたら少し騒がしいかもしれません…汗）

もし当院でリハビリを受けられる機会がありましたら是非そんな空気感も感じて頂けると幸いです。

今月のレシピ

白菜と豆腐のそぼろ煮

監修：栄養科

【材料】（4人分）

- ・白菜 ………… 350g
- ・豚ひき肉 ………… 200g
- ・絹ごし豆腐 ………… 300g
- ☆水 ………… 100㎖
- ☆濃口醤油 ………… 大さじ1
- ☆みりん ………… 大さじ1
- ☆砂糖 ………… 小さじ2
- ☆和風顆粒だし ………… 小さじ1/2
- ☆すりおろし生姜 ………… 小さじ1/2
- □片栗粉 ………… 大さじ1
- □水 ………… 大さじ2

〈作り方〉

① 白菜を角切りにする。豆腐は2㎝幅の角切りにする。
② フライパンに豚ひき肉を入れ、中火で炒める。
③ 全体に火が通ったら、白菜を加えて炒め合わせる。
④ ③に☆を加えて蓋をして、白菜が柔らかくなるまで煮込む。
⑤ 絹ごし豆腐を加えて再度煮込んだら、□を加えてとろみがつくまで混ぜる。
⑥ お皿に盛り付けたら完成。

ご意見、ご感想は松徳新聞編集局まで
TEL：072－334－3400
FAX：072－332－3512
メール：info-matsubara@tokushukai.jp

ホームページ　LINE
Facebook　Instagram

松徳新聞 2026年1月号

●編集責任者：阪口 昇二
●編 集 委 員：渡邊 成喜／武田 真澄
諏訪 翔大／武島 誠
杉山 義宜／和田 清尚
齋藤 智加

公開医療講演 & ZOOM オンライン医療講演

2026年 1月

※画像は、スマートフォン版です。

オンライン医療講演 は Web会議ツール「Zoom」ソフトを使用いたします。
みなさまには事前に「Zoom」のダウンロード等をお願いいたします。

iPhone・iPad

Android

講演中は、ホームページからオンラインで自由に参加出来ます。

会場とZOOMオンライン講演 入場無料

●1月16日(金) 14:30〜 NEW
会場:介護老人保健施設 松原徳洲苑 5F ホール

老健のメリット・デメリットとは?

講師/松原徳洲苑 介護福祉士 **山田 恵梨華**
吉屋 拓実

●1月17日(土) 糖尿病教室
会場:松原徳洲会病院 3F 小会議室

①どんな薬があるの? 解りやすい薬の話
14:00〜 講師/薬剤師

②やってみよう! 運動療法
15:00〜 講師/理学療法士

●1月19日(月) 14:30〜
会場:介護老人保健施設 松原徳洲苑 5F ホール

新しい癌の治療法

講師/外科顧問 **古河 洋**

●1月20日(火) 14:30〜 NEW
会場:松原徳洲会病院 3F 大会議室

マンモグラフィーのいろは

講師/放射線科 **桝矢 瑠璃**

●1月22日(木) 14:30〜
会場:クレオ大阪南 3F 研修室

あなたの血管は大丈夫?
〜動脈硬化による病気とその予防〜

講師/大動脈ステントグラフト血管内治療科部長 **阪口 昇二**

●1月23日(金) 14:30〜
会場:長原会館 1F 研修室A

今年も1年元気に乗り切ろう!

講師/心臓血管外科部長 院長 **吉田 毅**

◎健康相談会 15:00〜 (※お1人様当たり時間制限あり)

●1月24日(土) 糖尿病教室
会場:松原徳洲会病院 3F 小会議室

①今日から始める食事療法
14:00〜 講師/管理栄養士

②検査を理解して、合併症を未然に防ごう!
15:00〜 講師/臨床検査技師

●1月28日(水) 14:30〜
会場:長原会館 1F 研修室C

肩の痛みの自己管理

講師/整形外科部長 **仁丹 克則**

●1月29日(木) 14:30〜
会場:松原徳洲会病院 3F 大会議室

このままでは危険!! あなたの腎臓は元気ですか?
〜腎臓病と透析のお話〜

講師/臨床工学技士

●1月30日(金) 14:30〜 NEW
会場:長原会館 1F 研修室A

脳梗塞を予防しよう!

講師/脳神経外科顧問 **大山 憲治**

◎会場では感染予防のため、マスク着用と手指消毒をお願いいたします。

※事情により、イベント内容が変更または中止となる場合がございます。

《松原徳洲会病院 地域医療連携室》
TEL:072-334-3400 松原徳洲会病院 検索